

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—11060

⑤ Int. Cl.³
C 02 F 1/40
A 47 K 3/00

識別記号

庁内整理番号
7305—4D
7017—2D

⑬ 公開 昭和55年(1980)1月25日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 浮遊物等の排水装置

門真市大字門真1006番地松下電
器産業株式会社内

⑯ 特 願 昭53—84471

⑰ 出 願 人 松下電器産業株式会社

⑱ 出 願 昭53(1978)7月10日

門真市大字門真1006番地

㉑ 発 明 者 瀬川義章

㉒ 代 理 人 弁理士 中尾敏男 外1名

明 細 書

1、発明の名称

浮遊物等の排水装置

2、特許請求の範囲

水槽の側壁部に排水路と接続した溢水口を開口させ、この溢水口をフロート等の水位応動体で保持するとともに水位面より少し下方に位置する如く前記水位応動体に取り付けてなる浮遊物等の排水装置。

3、発明の詳細な説明

本発明は水面附近に浮んでいる浮遊物、例えば風呂の人体垢等を、余計な水を放出することなく効率よく排出できるようにした排水装置に関するものである。

一般に水面附近に浮んでいる浮遊物、例えば風呂の水面に浮んでいる浮遊物は風呂かけ等を用いてくみ出しているが、この時不必要な水までを大量にくみ出してしまうことになり、効率のよい排出ができなかった。また手間も非常にかかるものであった。そのうえ必要でない水を大量に捨てて

しまうので資源節約の面からも問題であった。²特
にこのような浮遊物の排出は流し台、洗面台等の
ように各方面において行なわれるためその水資源
損失は大きく、資源節約という面から無視できな
い問題となりつつある。そのため早急にこの問題
を解決することが望まれていた。

本発明はこのような要望に応えるもので、以下
その実施例を風呂に应用したもので説明していく。
図において、1は風呂の浴槽で、その槽壁2の外
周には間隙3を介してエブロンと称される外装板
4が装着してある。5はこの間隙3内に設けた水
位検知ボックスで、一側面に設けた開口6を前記
浴槽1の槽壁2に設けた開口7に接合して取付け
てある。なお上記開口6、7は浴槽1に溜めらる
最大水位と最小水位の間で形成してある。8は
ポリエチレン樹脂あるいはゴム等で形成した可撓
性の溢水パイプで、その一端溢水口9は前記水位
検知ボックス5内で開口させてある。そしてこの
溢水口9はその両側部にフロート10、10を取
付けて、前記浴槽1内の水位Aに応じて上下動す

るようにしてある。さらにこの溢水口9はその下端部が上記水位Aよりも少し下方に位置する如くフロート10、10'に取付けてある。11は前記水位検知ボックス5の下端に取付けた排水ボックスで、上記溢水パイプ8の下端が接続してあり、その排水パイプ12は前記浴槽1からの排水路13に接続してある。14は前記排水ボックス11内に設けた開閉弁で、スプリング15によって常時閉塞する方向に附勢してあり、ワイヤー16を介して連結した操作レバー17の押圧操作によって開成できるようにしてある。なお上記操作レバー17は第1図に示すように浴槽1の外側部に設けて簡単に操作できるようにしてあり、支持板18によって支持してある。19は上記操作レバー17を位置させるために浴槽1の外装板4に凹設したボックス部である。

上記構成において、この溢水装置では操作レバー17を押圧操作して開閉弁14を開成させると、浴槽1内に浮んでいる浮遊物が水とともに開口6、7を介して溢水口9から溢水パイプ8内に流れ込

み、そのまま排水ボックス11、排水パイプ12を介して排水される。

この時上記溢水口9は浴槽1内の水の水位Aよりも少し下方に位置しているだけであるから、浮遊物とともに流れ込む水はごくわずかなものとなる。そしてこの溢水口9はフロート10、10'に保持させて水位Aの上下動とともに上下動するので、水位Aが上昇しても、あるいは下降しても常に水位Aよりもわずかに下方に位置することになり、水位Aが下降して浮遊物の排出ができなくなったり、逆に水位Aが上昇して余分な水が排出されるようになってしまいうことがなくなる。すなわち水位Aがどのような位置にあっても常に最少限の水の排出によって浮遊物を捨てることのできるものである。

なお上記実施例では説明しなかったが、前記水位検知ボックス5、排水ボックス11、操作レバー17等を一枚のシャーシに取付けてユニット化しておけば、浴槽の形状、材質に応じてその取付方法のみを考慮することにより孔加工だけで浴槽

に組込むことができる。つまりすでに設置してある浴槽であっても簡単な加工で容易に取付けることができるようになる。またこれは浴槽以外の流し台、洗面台等の水槽にも取付けることができ、その応用範囲は非常に広い。

このように本発明によれば、水面近くに浮んでいる浮遊物を効率よく排出することができるとともに、その排出は水位の増減に関係なく常に効率よく行なえ、水資源の大巾な節約が可能になる等、その工業的価値は大なるものがある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例における排水装置を用いた浴槽の斜視図、第2図はその要部断面図、第3図は第2図のX-X'線断面図である。

1……水槽(浴槽)、9……溢水口、10、10'……水位応動体(フロート)、13……排水路。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名

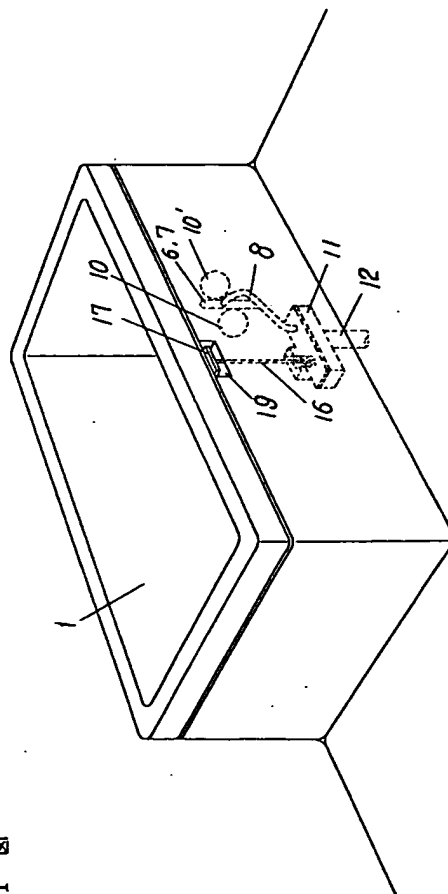
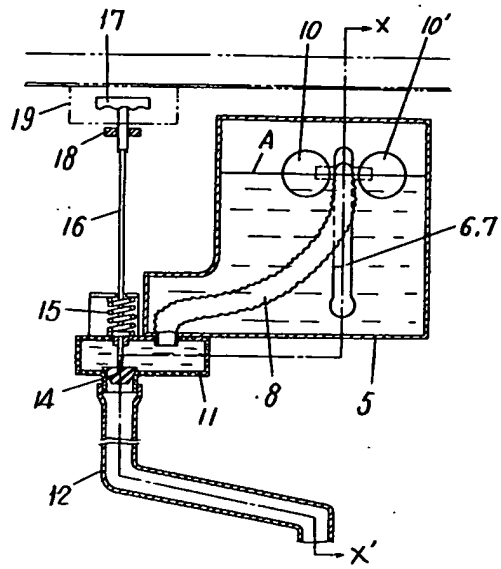
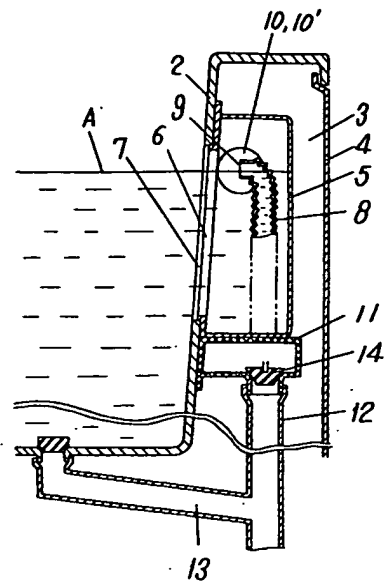


図
1
様

第 2 図



第 3 図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

☒ **OTHER:** Small letter

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.